

応用植物科学科の案内

1. はじめに（学科の概要と目的）	53
2. コースの案内と履修ガイド	54
3. 進級条件・卒業要件、履修上の留意点	58
4. 履修登録の上限	59
5. 専門科目一覧	60
6. 資格の案内	61

応用植物科学科

1. はじめに（学科の概要と目的）

生命科学部は 20 世紀後半から目覚ましい発展をとげた生命科学の基礎から応用に至るまでの教育研究の拠点として 2008 年に開設されましたが、この時、生命機能学科に植物医科学専修が設けられました。植物医科学専修は、植物の健康を守ることを目的とした総合科学「植物医科学」を中心にした、わが国初の教育研究を開始しましたが、開設後 6 年目にあたる 2014 年 4 月に、これまでの実績が認められて、応用植物科学科（植物医科学専修）として独立しました。

新学科独立とともに、教員数の拡充とカリキュラムの充実を実現し、植物医科学教育の一層の充実を実現することが出来ました。

現在、地球規模の食料問題、環境問題が進行しています。将来、90 億人を超える人類に重くのしかかる食料問題解決のカギは、優良な農作物とその栽培技術の開発にあることは論を待ちません。しかし、今も世界全体で 30% を超える農作物が病害虫や雑草などが引き起こす植物病により失われています。今後、温暖化、農産物流通のグローバル化などが新たな植物病を蔓延させるのではないかと懸念されています。さらに、最先端の食料生産技術としての植物工場などの、高度な集約的農業生産体系の普及に伴い、新たな植物病が問題となる可能性も考えられます。

一方、環境問題に目を向けると、環境に負荷をかけず限られた資源を有効に利用し、自然との共生のなかで、持続的発展を目指す循環型社会の実現が強く求められています。植物は、食料生産能力のみならず、炭酸ガス吸収を始めとする環境浄化能力や、再生産可能エネルギーとしてのバイオマス燃料の生産能力を持ち、地球上の物質循環の要に位置する生命体であり、植物利用技術を抜きにして循環型社会を実現することは不可能です。

さらに、現代社会では、都市緑化やガーデニングなどの、植物が持つ心の癒し効果の重要性が認識され、園芸セラピーや森林セラピーも注目されています。近未来社会において、植物は人類にとって物心両面で、現在よりもはるかに重要な存在となることは間違いありません。

以上のような植物の潜在能力を最大限に発揮するためには、植物が健康に生育する必要があります。病害虫を防ぎ、周辺環境と調和させながら農作物を栽培し、草地・緑地や森林を維持管理しなければなりません。そこで本学科では、「植物の健康を守る」というキーワードのもとに教育研究を展開し、植物の健康を守る専門家の育成に力を入れています。

具体的には、分子生物学から生態学まで、食料問題や食品の安全問題から環境問題まで、さらには経済・社会問題に至る幅広い総合的な知識を備えた上で、植物とそれを取り巻く微生物、昆虫などとの相互間の生命現象を、分子・遺伝子・細胞などミクロのレベルから組織・個体・生態系などのマクロのレベルまで解明して、植物病の診断・治療・予防に関する技術の研究開発や関連技術の普及指導などの能力を修得するための教育研究を行います。同時に、植物とその健康に関する総合的な知識を備えたプロフェッショナルとして、様々な植物病の診断、治療を行う実践的能力をもつプラントドクター（植物の医師）の養成を目指します。なお、植物医科学センターが 2014 年 6 月に開設されました。それにより、本センターへの診断依頼などを卒業研究の課題とすることも可能となり、より実践的な卒業研究に取り組むことができるようになりました。

次ページ以降の説明を熟読してください。

不明な点等がある場合は、クラス担任をはじめとする専任教員に遠慮なく質問してください。専任教員については、「オフィスアワー」の項目を参照してください。

2. 応用植物科学科の各コースの案内と履修ガイド

(1)ここでは、3つの履修モデルコースの概要と推奨する科目について説明します。このコース分類は履修の目安であり、複数のコースにまたがった履修科目の選択も可能です。また、各履修モデルはあくまでも一例です。

(2)以下の実験・実習科目および授業科目は、応用植物科学科の必修科目です。

植物医科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ、植物生産基礎実習Ⅰ・Ⅱ、植物医科学応用実験Ⅰ・Ⅱ、植物医科学インターンシップ、植物医科学専門実験Ⅰ・Ⅱ、植物医科学概論、診断技術論、植物臨床医科学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ

実験・実習科目は、配当年次に受講してください。植物医科学概論は1年次に受講してください。また、可能な限り、植物保護士演習は1年次に、植物医科学インターンシップは2年次に受講してください。

(3)以下の専門科目は、植物医科学の基本科目であり、受講することを推奨します。なお、樹木医補資格の取得を目指す者は、樹木医演習、自然再生士補の資格の取得を目指す者は、自然再生学概論の単位修得が必須です。

植物保護士演習、栽培植物学、環境と人間、植物分子細胞生物学、国際食料需給論、基礎植物害虫学、植物病原菌類学、植物病防除学、植物薬理学、樹木医演習、フードセイフティ論、植物生理生態学、食料・地域政策論、植物医科インフォマティクス演習、植物病学概論、植物感染生理学、植物生理病理学、雑草学、ポストハーベスト論、自然再生学概論

(4)以下の学部共通科目は、いずれも植物医科学に関係の深い専門科目です。

生物化学Ⅰ、分子生物学Ⅰ・Ⅱ、細胞生物学Ⅰ・Ⅱ、分子微生物学、細胞構造機能学Ⅰ、バイオエンジニアリング、遺伝子工学、生物有機化学、食品科学

以上の他に、科学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、専門科目の実験において必要とされる実験のセンスを身につけるために重要な科目です。必修科目ではありませんが、できる限り履修して下さい。また、教職化学、教職物理学、教職生物学は教職関連科目ではありますが、それぞれの科目の基本を身につけるために履修をお勧めします。

① 植物クリニカルコース

病原体や害虫自体と、それによって引き起こされる植物病の特性を学ぶとともに、植物病の効率的な診断・治療・予防のための臨床技術など、植物病理学や植物医科学分野の応用的な知識や先端技術を学びます。植物の医師として即戦力となりうる知識・技術を修得します。

推奨する科目（進級条件・卒業要件を満たすように定められた制限内で履修すること）

学年	コースコア科目	コース関連専門科目
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◎植物医科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物生産基礎実習Ⅰ・Ⅱ ◎植物医科学概論 ○栽培植物学 ○植物薬理学 植物保護士演習 植物病原菌類学 基礎植物害虫学 国際食料需給論 植物病防除学 	<ul style="list-style-type: none"> 環境と人間 植物分子細胞生物学 植物管理技術論 植物栄養学 生物学実験統計分析演習 土壌科学 分子生物学Ⅰ 生物化学Ⅰ
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◎植物医科学応用実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物医科学インターンシップ ◎診断技術論 ○植物生理生態学 ○樹木医演習（注 a） ○自然再生学概論（注 b） 食料・地域政策論 植物医科インフォマティクス演習 	<ul style="list-style-type: none"> フードセーフティ論 植物病学概論 ホーティカルチャー論 実践植物遺伝学 プレゼンテーション演習 植物細菌学 植物ウイルス学 微生物生態学 応用植物害虫学 細胞構造機能学Ⅰ 分子微生物学
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◎植物医科学専門実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物臨床医科学 ○植物生理病理学 ○雑草学 	<ul style="list-style-type: none"> 植物感染生理学 ポストハーベスト論 知的財産総論 生物制御化学 環境昆虫学 媒介システム学 応用動物学概論 植物メディカルゲノム学 遺伝子工学 食品科学
4年	◎卒業研究Ⅰ・Ⅱ	

（注）◎は必修科目、○はコース推奨科目

（a）樹木医補資格取得を目指す者は単位修得が必須です。

（b）自然再生士補資格取得を目指す者は単位修得が必須です。

② グリーンテクノロジーコース

自然界における植物生産と植物病の発生メカニズムを理解した上で、植物病の予防・治療に用いる薬剤の特性や使用方法、薬剤を使用しない植物の保護技術などを学びます。病虫害防除の新技术や植物保護に関連するバイオテクノロジーの研究開発能力や新技术の普及指導に携わる能力を涵養します。

推奨する科目（進級条件・卒業要件を満たすように定められた制限内で履修すること）

学年	コースコア科目	コース関連専門科目
1年	◎植物医科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物生産基礎実習Ⅰ・Ⅱ ◎植物医科学概論 ○植物分子細胞生物学 ○植物薬理学 植物保護士演習 植物病原菌類学 基礎植物害虫学 国際食料需給論 植物病防除学	環境と人間 栽培植物学 植物管理技術論 植物栄養学 生物学実験統計分析演習 土壌科学 分子生物学Ⅰ 生物化学Ⅰ
2年	◎植物医科学応用実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物医科学インターンシップ ◎診断技術論 ○植物病学概論 ○樹木医演習（注 a） ○自然再生学概論（注 b） 食料・地域政策論 植物医科インフォマティクス演習	フードセーフティ論 植物生理生態学 ホーティカルチャー論 実践植物遺伝学 プレゼンテーション演習 植物バイオテクノロジー概論 植物細菌学 応用植物害虫学 植物ウイルス学 細胞構造機能学Ⅰ 分子微生物学
3年	◎植物医科学専門実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物臨床医科学 ○植物生理病理学 ○植物感染生理学	雑草学 ポストハーベスト論 知的財産総論 媒介システム学 植物メディカルシステム学 生物制御化学 植物メディカルゲノム学 生物有機化学 食品科学
4年	◎卒業研究Ⅰ・Ⅱ	

（注）◎は必修科目、○はコース推奨科目

（a）樹木医補資格取得を目指す者は単位修得が必須です。

（b）自然再生士補資格取得を目指す者は単位修得が必須です。

③ グリーンマネジメントコース

植物生産全般に関する幅広い知識や技術を修得し、植物医科学に関連する政策や法令、植物と人間の関係など社会問題も学習します。植物保護と生産に対する的確な問題意識と総合的な思考能力を身に付けることによって、食料問題や環境問題などの地球規模の社会問題にも取り組める能力を涵養します。

推奨する科目（進級条件・卒業要件を満たすように定められた制限内で履修すること）

学年	コースコア科目	コース関連専門科目
1年	◎植物医科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物生産基礎実習Ⅰ・Ⅱ ◎植物医科学概論 ○栽培植物学 ○環境と人間 植物保護士演習 植物病原菌類学 基礎植物害虫学 国際食料需給論 植物病防除学	植物薬理学 植物分子細胞生物学 植物管理技術論 植物栄養学 生物学実験統計分析演習 グリーン経済学 分子生物学Ⅰ 細胞生物学Ⅰ
2年	◎植物医科学応用実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物医科学インターンシップ ◎診断技術論 ○フードセイフティ論 ○植物病学概論 食料・地域政策論 植物医科インフォマティクス演習	植物生理生態学 樹木医演習（注 a） 自然再生学概論（注 b） ホーティカルチャー論 実践植物遺伝学 プレゼンテーション演習 植物バイオテクノロジー概論 微生物生態学 植物医科ビジネス論 分子微生物学 バイオエンジニアリング
3年	◎植物医科学専門実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物臨床医科学 ○ポストハーベスト論 ○雑草学	植物感染生理学 植物生理病理学 知的財産総論 環境昆虫学 植物メディカルシステム学 植物医科学法論 グローバル環境政策論 植物セラピー論 遺伝子工学 食品科学
4年	◎卒業研究Ⅰ・Ⅱ	

（注）◎は必修科目、○はコース推奨科目

（a）樹木医補資格取得を目指す者は単位修得が必須です。

（b）自然再生士補資格取得を目指す者は単位修得が必須です。

3. 進級条件・卒業要件、履修上の留意点

ここでは最も重要な「進級条件・卒業要件」について説明をします。以下に記された事項を満たさないと、4年間で卒業することが非常に難しくなります。

進級・卒業するためには、以下の要件を1単位も漏らすことなく、すべて満たさなければなりません。また、該当学年の進級条件だけを満たすのではなく、卒業にむけて計画的な履修計画を立てることが大事です。

		教養系科目		専門科目	自由選択科目	合 計
		英語科目	教養科目 (人文・社会・自然科学系・保健体育系・選択語学系リテラシー系) 理系教養科目 (数学系・理科系)	学部共通科目 学科専門科目		
1 年 次	2年への 進級条件					30単位 以上
	履修上の 留意点	・少なくとも36単位以上の修得を目指すこと。 ・配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。				
2 年 次	3年への 進級条件			植物医科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ 植物生産基礎実習Ⅰ・Ⅱ 植物医科学応用実験Ⅰ・Ⅱ の修得		60単位 以上
	履修上の 留意点	・1年次修得単位と2年次修得単位の合計として、少なくとも72単位以上を目指すこと。 ・配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。				
3 年 次	4年への 進級条件	8単位				96単位 以上
	履修上の 留意点	・1～2年次修得単位と3年次修得単位の合計として、少なくとも108単位以上を目指すこと。 ・配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。				
4 年 次	卒業要件	8単位	24単位以上	80単位以上 (必修26単位を含む)	計12単位 以下	124単位 以上

※ 卒業要件について：英語科目の8単位、教養科目・理系教養科目の合計24単位と、専門科目の合計80単位の修得だけでは、合算が卒業要件の124単位を満たすことができません。したがって、さらに12単位分を教養科目・理系教養科目・専門科目・自由選択科目から修得してください。

※ GPA 制度の活用により、ポイントの少ない学生には、進級留級にかかわらず、本人並びに保証人に対して履修指導を行います。

4. 履修登録の上限

履修は、講義すべてに出席し、かつ十分な予習復習ができるように計画することが大切です。進級条件・卒業要件を満たすことを最優先し、以下の制限内で一年間の履修単位を決めてください。

- (1) 春学期・秋学期各々について30単位を超えて履修登録することはできません。
- (2) 年間の合計が49単位を超えて履修登録することはできません。
- (3) 2年次以降は上記を基準とし、GPAの結果を考慮して変更することがあります。
- (4) 科学技術コミュニケーション演習および卒業要件とならない教職科目や専門科目以外の資格科目は、上記(1)、(2)に記した履修制限の対象外となります。
- (5) ERP、グローバル教育センター主催科目（短期語学研修、国際ボランティア、国際インターンシップ。GPA対象外。）、グローバル・オープン科目を履修・修得すると自由選択科目として卒業所要単位に参入します。12単位を超えて履修・修得することはできません。

※通年科目の履修上限単位数計算について

通年科目については、春学期・秋学期半分ずつに分けて単位を計算し、それぞれの履修上限単位数に含めて計算するようにしてください。

例：4単位の通年科目の場合

→春学期2単位、秋学期2単位として、それぞれの履修上限に含めてください。

5. 応用植物科学科 専門科目一覧

学年	学部共通科目	応用植物科学科専門科目
1年	◎植物医科学概論 環境と人間 植物分子細胞生物学 植物薬理学 分子生物学Ⅰ・Ⅱ 生物化学Ⅰ 細胞生物学Ⅰ グリーンケミストリ 生物学概論Ⅰ・Ⅱ 物理学概論Ⅰ・Ⅱ	◎植物医科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物生産基礎実習Ⅰ・Ⅱ 植物保護士演習 植物病原菌類学 基礎植物害虫学 植物病防除学 国際食料需給論 グリーン経済学 生物学実験統計分析演習 栽培植物学 植物管理技術論 土壌科学 植物栄養学 教職化学 教職物理学
2年	微生物生態学 植物細菌学 植物ウイルス学 植物病学概論 植物バイオテクノロジー概論 細胞構造機能学Ⅰ・Ⅱ 分子微生物学 機器分析学 環境安全化学 分析化学 バイオエンジニアリング	◎植物医科学応用実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物医科学インターンシップ ◎診断技術論 応用植物害虫学 食料・地域政策論 植物医科ビジネス論 樹木医演習(注a) 自然再生学概論(注b) 植物医科インフォマティクス演習 プレゼンテーション演習 ホーティカルチャー論 フードセイフティ論 植物生理生態学 実践植物遺伝学 教職生物学
3年	植物メディカルゲノム学 遺伝子工学 生物有機化学 食品科学 ケミカルバイオロジー バイオインフォマティクス 物質循環化学 バイオマテリアル	◎植物医科学専門実験Ⅰ・Ⅱ ◎植物臨床医科学 植物生理病理学 雑草学 植物感染生理学 生物制御化学 植物医科学法論 グローバル環境政策論 環境昆虫学 媒介システム学 植物メディカルシステム学 知的財産総論 応用動物学概論 ポストハーベスト論 植物セラピー論
4年		◎卒業研究Ⅰ・Ⅱ

(注) 植物生産基礎実習ⅠとⅡは春学期、秋学期それぞれ1単位、それ以外は春学期または秋学期2単位。

◎は必修科目。

(a) 樹木医補資格取得を目指す者は単位修得が必須です。

(b) 自然再生士補資格取得を目指す者は単位修得が必須です。

6. 資格の案内

ここでは本学科在学中または卒業後に申請・審査により得られる資格および受験資格について説明します。将来のキャリア形成との関係をよく考えて、科目履修などに対応してください。

本学科在学中または卒業後に申請・審査により得られる資格および受験資格は以下の通りです。ただし、資格要件が変更されることがありますので、各資格を所管している団体のホームページ等に掲載される情報に注意してください。

(1) 高等学校教諭一種免許（理科）、中学校教諭一種免許（理科）

教職関連の科目の修得が別途必要です。なお、教職関連科目については、教職課程履修の手引きを参照してください。

(2) 技術士（農業部門・植物保護）

技術士とは、「技術士法」に基づく国家資格で、国家試験に合格し、登録を受けた人に与えられる資格です。技術士は、工学、農業、環境部門など科学技術全域にまたがる21の技術部門がありますが、植物保護を専門とする技術士（農業部門・植物保護）は2004年に新設されたものです。「植物保護士演習」はこの資格の取得を目的とした専門科目です。技術士試験の出題内容は多岐にわたるため、受験するには植物医科学専門科目および農業関連の知識・情報等を幅広く学習する必要があります。

技術士試験における植物保護の内容は、病虫害防除、雑草の防除、発生予察、農薬その他の植物保護に関する事項となっています。この植物保護を専門とする技術士を「植物保護士」と称しています。

技術士試験は、指定試験機関である日本技術士会が毎年実施しています。第一次試験と第二次試験があります。第一次試験は1年次から受験でき、合格すれば在学中に技術士補登録をする資格が与えられます。本学科では、在学中に技術士補の資格取得を目指します。第二次試験を受験するには、技術士補となってから4年以上の実務経験を積むなどの要件があり、試験は筆記試験（記述問題など）と筆記試験合格者に対する口答試験（面接）で構成されます。第二次試験に合格すると、技術士登録をする資格が与えられます。

(3) 樹木医

樹木医制度は、1991年に林野庁の事業として創設された制度で、現在は、財団法人日本緑化センターが認定機関として管理運営しています。「樹木医演習」はこの資格の取得を目的とした専門科目です。法政大学の応用植物科学科（植物医科学専修）は、樹木医補資格養成機関として登録されており、後述の所定科目の修得により、申請・審査を経て、樹木医補の資格が認められます。樹木医補としての認定を受けると、その後、1年の実務経験を積むことにより樹木医試験の受験資格を得ることができます。

樹木医試験の応募資格は、樹木の保護、樹勢回復などに関する研究または実務に従事した経験年数が通算して7年以上、あるいは樹木医補認定後1年以上の業務経験が必要です。研修が義務付けられているため、一次審査は樹木医研修の受講者を選抜する目的で行われます。筆記試験と業績審査によって受講者を選抜されます。一次審査の合格者を対象とした二次審査（樹木医研修）は2週間の日程で講義と実習が実施され、研修科目ごとの筆記試験と、樹木医としての適正等を判断する面接試験が行われます。合格者は登録申請に基づき樹木医認定証が交付され、登録者名

簿に掲載されます。登録者名簿は林野庁、都道府県・市町村等の緑化担当部局や緑化センターなど関係機関に提出されます。

次の表のうち、講義分類8分野から6分野以上を選び14単位以上を修得し、かつ実験・実習において4分野4科目以上を修得することにより、卒業後に、樹木医補の資格取得を申請することができます。なお、講義科目のうち樹木医演習の単位修得は樹木医補資格申請するために必須です（樹木医演習の単位を未修得の場合は資格申請ができません）。また、実験・実習科目の分野では、植物医科学基礎実験Ⅰなどの実験科目のほかに、インターンシップ（造園関係企業、樹木医学関連機関に限る）または「樹木医学にかかる卒業論文」の単位を取得する必要があります。

樹木医補資格関係専門科目一覧表（分野別の科目対応表）

分野別	講義科目	実験・実習科目
樹木の分類		
樹木の生態・生理	植物生理生態学	
立地・土壌	土壌科学	
植物病理	植物医科学概論 植物病学概論 植物病防除学	植物医科学基礎実験Ⅰ 植物医科学応用実験Ⅱ 植物医科学専門実験Ⅱ
昆虫・動物	環境昆虫学 媒介システム学 基礎植物害虫学	植物医科学専門実験Ⅰ
樹木医学	◎樹木医演習 植物病原菌類学	植物医科学専門実験Ⅰ
農薬科学	植物臨床医科学 植物薬理学	植物医科学応用実験Ⅰ 植物医科学専門実験Ⅰ
造園学		インターンシップ（派遣先は造園関係企業に限る）
樹木医補総合		インターンシップ（派遣先は樹木医学関連機関に限る）

（注）卒業論文（樹木医学にかかる研究に限る）は内容により該当分野の実験・実習科目として申請可能。

◎樹木医演習は本資格申請のための必須科目（樹木医補資格を申請する者は必ず単位を修得すること）。

(4) 自然再生士

自然再生士資格制度は、人と自然が共生する持続可能な社会の構築と、その根源である生物多様性の保全を推進するため、自然再生に係る理念の啓発とその技術の普及を目的として、2012年に財団法人日本緑化センターにより創設された制度です。法政大学の応用植物科学科（植物医科学専修）は、2012年2月に自然再生士補資格養成機関として認定・登録されており、後述の所定科目の修得により、在籍中又は学部卒業後に本人の申請・審査を経て、自然再生士補の資格が認められます。自然再生士補に登録し、認定を受けると、その後1年以上の自然再生に係る実務経験を積むことにより自然再生士資格試験を受験することができ、合格者は自然再生士として登録・認定されます。

自然再生に係る実務経験には、社会人になってからのボランティア活動や調査・研究などが含まれます。試験合格後、最初の自然再生士の認定期間は5年間ですが、自然再生技術研修会を修了（初回登録時から3年後）、指定されたCPD*単位の修得（5年間で125単位）、自然再生士として携わった実務レポートの提出など所定の要件を満たした登録者は、登録更新・再認定を受け

ることができます。

* CPD (Continuing Professional Development ; 継続研鑽) 単位

自然環境の保全・育成・自然再生活動に係る NPO 活動等への参加や、経験レポートの提出などのポイント制度により加算される。

次の表に示した専門科目から、特別講義(自然再生学概論)を必須とし、実験・実習(演習)分野又は講義分野より1科目以上、あわせて2科目以上4単位以上履修・修得することにより、在学中又は卒業後に、自然再生士補の資格を申請することができます。

自然再生士補資格関係専門科目一覧表 (分野別の科目対応表)

実験・実習(演習)分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
動・植物同定調査に係る実習・演習 (森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む)	植物医科学基礎実験 II	自然再生・自然環境概論	雑草学
		自然再生・自然環境保全に係る維持管理計画・管理学	樹木医演習
自然環境保全活動に係る実習・演習	植物生産基礎実習 I・II	植物(草本類、木本類、水生植物等)分類・生態・生理学	植物生理生態学 植物生理病理学
プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	インターンシップ 科学技術コミュニケーション演習(注)	動物(哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等)分類・生態・生理学	環境昆虫学 基礎植物害虫学 生物制御化学
特別講義	◎自然再生学概論	環境経済学	グリーン経済学
		環境関連法規	環境と人間 食料・地域政策論

(注)「科学技術コミュニケーション演習」は教養系科目で、SAプログラム(短期留学制度)の認定科目

◎自然再生学概論は、本資格申請のための必須科目(自然再生士補を申請する者は必ず単位を修得すること)。

(5) 公務員受験対策コース

植物医科学の専門知識を生かすことが出来る職場が、国や都道府県にも多く存在することから、卒業後の選択肢として公務員をめざす者のために、応用植物科学科では、公務員受験対策のための履修コースを設けています。主な専門科目として、「環境と人間」、「栽培植物学」、「国際食料需給論」、「植物管理技術論」、「グリーン経済学」、「植物栄養学」、「土壌科学」、「生物学実験統計分析演習」、「ホーティカルチャー論」、「フードセーフティ論」、「実践植物遺伝学」、「植物医科学法論」、「応用動物学概論」、「グローバル環境政策論」を指定し、公務員試験対策となる内容を交えながら、講義を行うこととしています。

公務員受験対策コース関連科目一覧

配当年次	春学期	秋学期
1年	栽培植物学、国際食料需給論、植物管理技術論、教職化学、植物栄養学	グリーン経済学、土壌科学、生物学実験統計分析演習、教職物理学、環境と人間
2年	ホーテカルチャー論、教職生物学、実践植物遺伝学	フードセーフティ論
3年	植物医科学法論、応用動物学概論	グローバル環境政策論

(6) その他

その他に植物医科学専門科目と関連する、化学物質（農薬）管理、環境管理、バイオテクノロジー関係の資格の取得を希望する学生諸君は、個別に指導教員に相談してください。